

伊藤明生作 「兄貴」

効果音 (街の雑踏)

有田圭子 あ、いけない！

飯野吉美 どうしたの？

圭子 今日、兄貴の誕生日だった。なんか買ってかなくちゃ。

吉美 あんた、何か当てはあるの？

圭子 ううん、ないわ。なんかいいものある？

吉美 そりゃあもう。

圭子 何よ?!

吉美 本よ。

圭子 本？ ダメよ。兄貴、浪人中だもん。本なんか読む暇ないわよ。

吉美 A BOOK じゃなくて THE BOOK よ。

圭子 ???

吉美 そこの本じゃなくて、永遠のベストセラーよ。

圭子 ああ、森村誠一？

吉美 あんた、バカねえ。角川にいくらもらってるのよ。本の本、命の本よ。

圭子 分かった。聖書のことでしょ。でも、うちの兄貴、全然興味ないもん。

吉美 あんた、夏のキャンプで決心した時、どう思った？

圭子 (一瞬面くらって) え？ そりゃあうれしかったわ。イエス様がわたしのために死んでくれたなんて、信じられないほど感激しちゃった。

吉美 今は？

圭子 今だって、クリスチャンになる前に比べたら、やっぱ、バラ色の毎日よ。

吉美 あんた、あの聖句知ってるでしょ？

圭子 どれ？

吉美 「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」っていうの。

圭子 うん。だって週報に載ってるじゃない。でも、あんまり意味が分からないわ。わたしが信じて、自動的に家族も救われるの？ でもうちの家族は、わたしがバプテスマ受けんだって反対よ。

吉美 飯島先生が前 言ってたわ。そういう風に誤解されてるけど、本当は、主イエスを信じて、自分も家族も救われる“救いの条件”が主イエスを信じてることなんだって。

圭子 ふうん。(思い出したように)でも、これとさっきの話と、どういう風に関係あんの？

吉美 だからさ、あんたの感激を家族全員のものにするには、最初に救われたあんたが家族にキリストを伝えなきゃならないのよ。クリスチャンは“地の塩”“世の光”“キリストの香り”を放つ者だもの。皆それぞれ家とか学校で、あかしの務めを持ってるのよ。

圭子 でも兄貴、わたしの言うことなんか聞いてくれないもん。

吉美 (ポンと聖書をたたきながら)だからこれがあるんじゃない。THE BOOK、神のみ言葉よ。「信仰は聞くことから始まり、聴くことは、キリストについてのみ言葉によるのです」ってパウロも書いてるじゃない。聖書を通してみ霊が働いて、人を救いに導くのよ。

圭子 ふうん。(決心して)よし、やってみようっと。

ナレーション どうです、今の会話？ おしゃべりの主は、青春高校1年C組の、有田圭子と飯野吉美。二人とも、クラスも同じなら、中3の時のバイブルキャンプで共にイエス様を信じて、通っている教会も同じという大の仲良しなのです。有田圭子は、兄と2人兄弟で、3つ違いの兄とはしょっちゅうケンカしながら、心の中ではだれよりも大事に思っているのです。今日はその兄貴の誕生日だったのです。圭子は本屋で聖書を買ひ、きれいなリボンで結んでもらうと、飛ぶように家に帰りました。

音楽・効果音 (ステレオの音。戸を開ける音)

圭子の兄 おい、ノックもしないで人の部屋を開けるやつがあるか！

圭子 あ、ごめんなさい。やり直し！

効果音 (戸を閉じる音。ノックの音)

兄 勝手に入ってきて、今更たたいも遅いわい。

圭子 お兄ちゃん、誕生日おめでとう。はい、これ。

兄 へえ、お前にしちや気がきくじゃないか。(小声で)案外、ヤソ教も悪くないのかもね。

圭子 え、何？

兄 いや、別に。なんだ、本みたいだな。「宇宙戦艦ヤマト」かい？

圭子 あ、ちょっと待って。(本を取り返す)

兄 おい、なんだよ。いったんくれたものを引っ込めるなんて、根性悪いぞ。「受けるより与える方が幸いだ」って教会で教わったんだろ？ おれはやだけどな。

圭子 なんだか当ててみてよ。

兄 ???

圭子 本の中の本、永遠のベストセラーよ。

兄 おれの受ける有名大学にや、そんな問題出ないよ。ホメロスか、ドストエフスキー辺りじゃないのか？

圭子 (笑う)だからお兄ちゃん、去年落ちたのよ。

兄 言ったな、お前。

圭子 冗談冗談。はい。

効果音 (包みを開ける音)

兄 おい、これはなんだよ？

圭子 聖書よ。

兄 そんなの分かってるよ。人バカにすんのもいい加減にしろ。誕生日のプレゼントとかなんとか言って、こんな子供だましな…。

圭子 (ムツとして)何よ。人がせっかく小遣いはたいて買ってきたのに、その言いぐさはないでしょ。少しは感謝したら？

兄 “感謝”？ 笑わせるなよ。人は自分の欲しいものを買ってもらって感謝すんだよ。だれが一体、欲しくもないものもらって感謝するかよ。

圭子 ひどいよ。「お誕生日、何がいい？」って聞いたら、「なんでもいい」って言ったくせに。くれるものを拒まないのがお兄ちゃんのもットーでしょ。

兄 それも時と場合によるよ。誕生日に聖書か。ふん、笑い話にもならないよ。まだ湯島天神のお守りの方が何かの足しになるよ。

圭子 何よ。「おれは神や仏なぞ信じないぞ」なんて言ってたくせに。結局、「困った時の神頼み」じゃないの。

兄 十字架で死んだ人間に何ができる？

圭子 死んだけど、3 日目によみがえったわ。イエス様はただの人間じゃなくて、神の一人子だもん。神様だもん！

兄 (軽べつしきって)お前、本当にそんなこと信じてんのか？ 女はだからダメなんだよ。

圭子 お兄ちゃんだって、全然男らしくないわよ。大学落ちた時なんか、ヤケ酒飲んで「自殺する！」なんてわめいてたくせに。結局、自分だって弱いんじゃない。

兄 神様がいなきゃ生きられないお前よりは強いさ。20 世紀の今どき、神もへちまもない。人間やっぱ強く生きなきゃダメさ。

圭子 お兄ちゃんのこと思ってせつかく買ってきたのに。お兄ちゃんだって気休めしなきゃならないほど気がめいってるんでしょ？

兄 いや、少し油断して自分に対して甘かっただけさ。でも今年は大丈夫だ。

圭子 そんなこと言ったって、どうせ今年だって湯島天神にお参りに行くわよ。

兄 (ちよっと詰まって)そりゃあ行くさ。行かないで落ちたら悔しいからな。

圭子 そんな迷信、信じんのやめて、本当の神様 知ってよ。

兄 本当の神もウソの神もないさ。神様なんてみんな迷信さ。人間が作り出したもんさ。

圭子 唯一の神がいらっしゃるのよ。だまされたと思って聖書読んでみてよ。

兄 お前、聖書に書かれていることなんかウソっぱちだよ。天と地を創るなんてアホらしい。宇宙は、アインシュタインの相対性理論に従ってできたのさ。創り主なんていないさ。

圭子 でも、何でもいいから読んでみてよ。

兄 アホ言うなよ。こんな神話と童話の合いの子読んでる暇なんかないさ。

圭子 それでステレオ聴く暇はあるの？ 聖書は神話や物語じゃなくって、「神の言葉」なのよ。

兄 ふん、(開き直って)面白い。証明できるか？ え？ 人間の言語で、人間の手で書かれてなんで神の言葉なんだよ。アホらしい。おれには、ステレオを聴くのは必要だが、女子のおとぎ話は必要ないんだ。ああ、やかましい。ギャアすかわめいてないで、いい加減出ていけえ！

効果音 (聖書をほおり投げる音)

圭子 お兄ちゃんのバカ！ アホ！ 人の気持ちを無視して。

効果音 (戸を荒々しく閉める音)

圭子(モノローグ) (半ベソで)兄貴のバカ！ もう少し物分かりがいいかと思ったのに。本当はもっと優しい兄貴なのに。去年受験に失敗してから、ああだもん。まともに話もできやしない。前はもっと妹思いのいい兄貴ぶりを発揮してたのになあ。なんであんなに変わっちゃったのかな。兄貴を救いに導くなんて無理なのかな。でも聖書にはっきり書いてある。「信仰は聞くことから始まり、聞くことはキリストについてのみ言葉によるのです」って。でも、よく考えてみると、自分がいけなかったんだな。兄貴が頭ごなしに言うもんだから、カッカしちゃう。全然言い方がなっちゃうな。最初からケンカ腰だったもん。神様、ごめんなさい。自分の力で何かしようと思って、あなたのこと、すっかり忘れてマヒた。それに、兄貴の救いのために全然祈ってなかったもん。これから兄貴の救いのために毎日祈ろ。そしてわたしのためにも――。

ナレーション そう決心した時、圭子はなんだかスーッと胸のつかえが下りたような気がしました。そして、

“大好きなたった一人の兄貴に、きっとイエス様を信じてもらうんだ”と、静かなファイトを燃やしたのです——。

<完>